

第 53 回東葛しぜん観察会

セミの羽化とクロマドボタルの発光

新堀昌邦(白井市)

日 時：2009 年 8 月 1 日 (土) 18 時 30 分～20 時 30 分

場 所：手賀の丘少年自然の家 裏の公園内 天気：曇り

参加者：大人 18 名 子ども 15 名 指導員：11 名

担当指導員：新堀昌邦 日野原純子 木村将夫

8 月第一土曜日の観察会は、近隣地区の夏祭りが行なわれています。その関係で、参加者が少ないのでとと思いましたが、申込者 33 名が全員出席で、何よりの観察会が出来た事が、大変良かったと思いました。今回は、手賀の丘少年自然の家の好意で施設の多目的ホールを借りて「セミの羽化とクロマドボタル」の発光の様子をビデオ視聴し、その後、夜の森へ観察に出かけました。最初に、セミの生態を観察し、実際に土の穴から這い出して来て、木に登り、高さ、2mぐらいのところで、脱皮する様子が見られました。この間、時間にして 40 分かかったので、あのセミが脱皮する時間を計らって、参加者をクロマドボタルがいる場所に案内し、ボタルの発光を観察してもらいました。ボタルは、周りの環境で発光する時間がバラバラで、一斉に発光とはゆきませんでしたが、4 カ所で発光しているのが確認されました。この間の時間は、30 分間でしたが、観察時間が少し早かったせいか、余りボタルの動きが活発ではなかったようです。ボタルを見終わったあと又先程のセミの羽化を見に行きました。セミはアブラゼミでしたが、完全な姿で脱皮して、羽化していました。この様子は、今日の参加者全員が、確認して満足でした。特に、子どもたちより親の方から、すばらしい一面を見せていただき感動しました、と言っていたのが印象的でした。

＜クロマドボタル＞ ボタルは、世界で 2000 種類生息しています。日本では、46 種類います。その内、ゲンジボタルとヘイケボタルの 2 種類は、幼虫時代を水中で過ごします。その他のボタルは、陸で生活しています。又成虫が発光するのは、21 種類で、その他は発光せず両行性か昼行性です。クロマドボタルの成虫は、オスが 10 mm、メスが 13 mm でメスはオスより大きく、羽根は退化しています。オスは前方に 1 対の透明部分(マド)があり、頭を引っ込んだ時に、このマドに眼がきます。幼虫は 20 mm で全体が黒褐色で、エサは、ウスカワマイマイ(小さなカタツムリ)で、陸貝をエサにしています。暗くなると、地表や木の葉、枝などを、シャクトリムシのように歩行しながら、連続的に光を放ちます。観察時期は、成虫が、6 月上旬～中旬、幼虫が 7 月上旬～10 月下旬(夜間気温 14°C 以上で活動)です。

＜セミの一生＞ セミは枯れ枝に産卵し、その後、幼虫として土の中で 5 年間過ごします。6 年目の夏、幼虫は羽化するために木に登ります。羽化後、成虫は鳴き始めますが(オスのみ) 1～2 週間で死んでしまいます。

＜参加者の感想＞

- 1) セミの羽化は明け方と考えていたので驚いた。又、本物を初めて見られて感動しました。
- 2) 幼虫が光るとは想ていなかつたので、驚きでした。
- 3) セミの羽化はテレビとか写真や図鑑では見た事はありますが、実際に、本物を見せていただき感動しました。
- 4) 子供は初めて見たので、とても良かったです。又、子供の中には、一番楽しんだのは、お父さんみたいと言う声がありました。
- 5) 親たちは、飛ばないボタルがいるとは、ビックリすると共に、珍しいボタルを見ました。とても感激しました。
- 6) その他の虫を見た子どもたち: カマドウマ、カブトムシ、カミキリムシ、カゲロウ、ノシメトンボ等